

令和3年10月 全国百貨店売上高概況

令和3年11月25日

I. 概況

1. 売上高総額	3,848億円余
2. 前年同月比(増減率)	2.9%(店舗数調整後/3か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	73社 189店(令和3年9月対比-1店)
4. 総店舗面積	4,927,526㎡(前年同月比:-2.4%)
5. 総従業員数	58,100人(前年同月比:-2.8%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	3-5月 61.2%、4-6月 44.9%、5-7月 11.7%、 6-8月 -2.5%、7-9月 -3.4%、8-10月 -3.9%

【参考】令和2年10月の売上高増減率は-1.7%(店舗数調整後)

【特徴】

10月の売上高は2.9%増(3か月ぶり)、前々年比でも1.3%増とプラスに転じた。

緊急事態宣言等が解除され、主要顧客層の外出機会が増加したことに加え、各社が企画した組織顧客向け施策や物産展等各種催事も奏功した。高額商材の増勢が続いている他、気温低下で衣料品など秋冬商材も好調だった。なお、入店客数は0.8%減とほぼ前年並みであったが、前々年比では22.0%減と、コロナ禍前の水準には至っていない。

顧客別では、国内市場(3か月ぶり/シェア99.2%)は2.6%増、前々年比7.7%増となった。インバウンドは49.3%増(2か月連続/シェア0.8%)だが、前々年比では87.7%減と厳しい状況が続いている。

地区別では、大都市(10都市/3か月ぶり/前々年比0.6%増)が9地区で前年を上回り、4.3%増と回復傾向を示した。一方、地方(10都市以外の地区/5か月連続/前々年比3.2%増)は0.4%減となり、都市と地方の差は、前月より2.0ポイント広がった。

商品別では、主要5品目のうち、4品目(衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品)で前年実績を超え、特に高級時計や宝飾、ラグジュアリーブランドなど高額品は高伸が続いている。また、宣言解除で外出意欲が高まり、旅行用品や靴、アクセサリなどが堅調だった他、気温の低下に伴ってコートやブルゾン、ジャケット、セーター等も動いた。食料品は、人気の物産展等食品催事の他、弁当、惣菜など巣ごもり関連も底堅かった。和洋菓子は土産需要の復調もあり伸長した。おせちやクリスマスケーキの予約は、EC・店頭ともに好調に推移している。

各社では、本格化する年末商戦に向けて、引き続き感染防止策を徹底しつつ、デジタル活用策を中心とした様々な施策展開など、業績回復の取り組みを進めている。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「10月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
◇月の前半は全国的に高温、後半は低温となり、気温の変化が大きかった。降水量は北日本日本海側ではかなり多く、西日本日本海側ではかなり少なかったほか、日照時間は西日本太平洋側でかなり多かった。
- (2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 ±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日(" +1日/日曜1日増)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数108店舗)
①増加した：37店、②変化なし：27店、③減少した：44店
- (5) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数79店舗)
①増加した：20店、②変化なし：43店、③減少した：16店

全国百貨店 売上高速報 2021年10月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	384,836,127	100.0	2.9 (2.5)
10都市	276,715,107	71.9	4.3
札幌	10,396,139	2.7	4.3
仙台	5,810,506	1.5	3.6
東京	104,802,000	27.2	4.9
横浜	24,638,973	6.4	3.4
名古屋	27,030,668	7.0	6.1
京都	16,063,375	4.2	0.4
大阪	54,524,302	14.2	3.7
神戸	9,714,313	2.5	5.6
広島	7,952,115	2.1	-0.8
福岡	15,782,716	4.1	7.8
10都市以外の地区	108,121,020	28.1	-0.4 (-1.8)
北海道	936,558	0.2	0.1
東北	5,010,889	1.3	-0.4
関東	47,879,338	12.4	-0.4 (-2.6)
中部	7,679,822	2.0	-0.7 (-6.4)
近畿	15,330,136	4.0	-3.2
中国	8,623,863	2.2	0.6
四国	5,653,455	1.5	6.5
九州	17,006,959	4.4	-0.4

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	384,836,127	100.0	2.9 (2.5)
紳士服・洋品	25,203,895	6.5	-1.1 (-1.3)
婦人服・洋品	76,522,737	19.9	4.3 (3.7)
子供服・洋品	7,294,786	1.9	-6.8 (-7.1)
その他衣料品	7,743,864	2.0	-4.8 (-4.9)
衣 料 品	116,765,282	30.3	1.7 (1.3)
身のまわり品	54,391,457	14.1	7.3 (7.0)
化粧品	29,151,507	7.6	2.1 (1.9)
美術・宝飾・貴金属	33,969,135	8.8	11.7 (11.5)
その他雑貨	11,627,817	3.0	-8.3 (-9.0)
雑 貨	74,748,459	19.4	4.3 (4.0)
家具	4,264,454	1.1	0.9 (0.6)
家電	1,048,880	0.3	-11.9 (-11.9)
その他家庭用品	10,165,082	2.6	-3.1 (-3.5)
家 庭 用 品	15,478,416	4.0	-2.7 (-3.1)
生 鮮 食 品	18,212,269	4.7	-6.8 (-7.4)
菓 子	26,447,567	6.9	8.7 (8.2)
惣 菜	27,126,062	7.0	5.7 (5.2)
その他食料品	30,712,289	8.0	1.8 (1.2)
食 料 品	102,498,187	26.6	2.8 (2.3)
食 堂 喫 茶	8,130,438	2.1	0.7 (0.1)
サ ー ビ ス	3,698,716	1.0	-1.9 (-2.4)
そ の 他	9,125,172	2.4	-1.4 (-1.5)
商 品 券	5,894,004	1.5	-2.9 (-3.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

1. 10都市売上動向	4.3% (店舗数調整後／3か月ぶりプラス)
2. 10都市以外の地区売上動向	-0.4% (店舗数調整後／5か月連続マイナス)

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
10都市	4.3	3.1	3か月ぶりプラス
札幌	4.3	0.1	5か月ぶりプラス
仙台	3.6	0.1	3か月ぶりプラス
東京	4.9	1.3	2か月連続プラス
横浜	3.4	0.2	5か月ぶりプラス
名古屋	6.1	0.4	2か月ぶりプラス
京都	0.4	0.0	3か月ぶりプラス
大阪	3.7	0.5	3か月ぶりプラス
神戸	5.6	0.1	3か月ぶりプラス
広島	-0.8	-0.0	5か月連続マイナス
福岡	7.8	0.3	3か月ぶりプラス
10都市以外の地区	-0.4	-0.1	5か月連続マイナス
北海道	0.1	0.0	5か月ぶりプラス*
東北	-0.4	-0.0	5か月連続マイナス*
関東	-0.4	-0.1	5か月連続マイナス
中部	-0.7	-0.0	2か月ぶりマイナス
近畿	-3.2	-0.1	3か月連続マイナス
中国	0.6	0.0	5か月ぶりプラス*
四国	6.5	0.1	3か月ぶりプラス
九州	-0.4	-0.0	5か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、家庭洋品を除く4品目（衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品）が3か月ぶりにプラスとなった。その他の品目は、美術・宝飾・貴金属が9か月連続でプラスとなったほか、婦人服・洋品が3か月ぶり、化粧品が5か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	2.9	—	3か月ぶりプラス
紳士服・洋品	-1.1	-0.1	5か月連続マイナス
婦人服・洋品	4.3	0.8	3か月ぶりプラス
子供服・洋品	-6.8	-0.1	5か月連続マイナス
その他衣料品	-4.8	-0.1	3か月連続マイナス
衣料品	1.7	0.5	3か月ぶりプラス
身のまわり品	7.3	1.0	3か月ぶりプラス
化粧品	2.1	0.2	5か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	11.7	1.0	9か月連続プラス*
その他雑貨	-8.3	-0.3	5か月連続マイナス*
雑貨	4.3	0.8	3か月ぶりプラス
家具	0.9	0.0	4か月ぶりプラス
家電	-11.9	-0.0	4か月連続マイナス
その他家庭用品	-3.1	-0.1	5か月連続マイナス
家庭用品	-2.7	-0.1	5か月連続マイナス
生鮮食品	-6.8	-0.4	5か月連続マイナス*
菓子	8.7	0.6	2か月連続プラス*
惣菜	5.7	0.4	2か月連続プラス*
その他食料品	1.8	0.1	4か月ぶりプラス*
食料品	2.8	0.7	3か月ぶりプラス
食堂喫茶	0.7	0.0	3か月ぶりプラス
サービス	-1.9	-0.0	4か月連続マイナス
その他	-1.4	-0.0	6か月連続マイナス
商品券	-2.9	-0.0	5か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>